



港 工 同 窓 会

ニ ュ ー ス

第 15 号 平成 28 年 4 月 20 日 発 行 発 行 責 任 者 前 田 武 雄

『私と港工』

港工同窓会会長

港(全)3期電力科 前田 武男

今年「年男」84才になります。私は戦争が激しくなった昭和20(1945)年に小学校を卒業し、都立高輪工業(港工の前身)に入りました。しかし毎日のように空襲で授業どころではなく、敵機来襲の警報が出ると直ちに下校です。電車は不通となり、高輪北町にある学校から大井町の自宅まで歩いて帰宅します。途中、敵航空母艦から発進された戦闘機に襲われ、操縦士の顔が見えるほどの低空から機銃を浴びせられたこともありました。

当時の学校は品川駅を出て第一京浜国道を線路沿いに田町方面へ行きますと、ほどなく戦災を免れた古ぼけた建物が見えてきます。うっかりすると見落とすほど貧弱な建物で校門の両側は民家、校門を入ると左側に平屋建ての実習工場、正面と右側にはL字型二階建ての校舎、うす暗い廊下や階段は歩くとびにギシギシと悲鳴をあげ、落ちはしないかとヒヤヒヤさせられる。又、校庭は猫のひたいほどの狭い中庭など元小学校であったものを転用した四百名位の生徒しか収容できない狭小木造校舎でした。そこに高輪・渋谷・麻布三

校の千二百余名がひしめきあったのです。当然、朝・昼の二部授業でした。

昭和23(1948)年4月高輪工業は学制改革により都立港工業新制高等学校と改称され、愛宕山下の小学校転用校舎に移転したのです。

しかし、校舎は昭和3(1928)年に建築されたそうで、当時は空襲を受け三階は焼けただけ、天井は真っ黒コゲだし、各教室の窓ガラスはほとんど無く、あつても鉛のように垂れ下がり、窓枠は真っ赤にサビていました。

私たち低学年は高輪工業桜川分校で併設中学校生として学びました。その後、私が将来を託す会社が、桜

川分校の斜め前にあったことに、言うに言われぬ運命を感じております。私は昭和23年、晴れて港工業第3期生として入学致しました。入学してまず一番驚いたことは、同じ校舎内に女子中学生が居たことでした。

ここには港中学が同居していたのです。男子校の生徒としては女子生徒など身近に見たこともなく、心ときめかしたことを懐かしく思い出しました。

学校が新橋と浜松町の間にあつた為、繁華街の新橋を避け浜松町から通う決まりでしたが、私は守らず往きは浜松町、帰りは新橋と決めていました。

〔次ページへ続く〕

◆平成28年度定期総会

記

日時 平成28年6月25日(土) 13時より(受付12時30分)

場所 総会 六郷工科高校2階会議室にて13時より(京浜急行「雑色」徒歩3分)

内容 平成27年度事業・決算報告、新役員承認

場所 平成28年度事業計画・予算案の承認・その他

会費 芝パークホテルにて 16時より(都営地下鉄「御成門」徒歩5分)

※懇親会参加者付き添いの方は無料です。

※懇親会参加の方は同封の郵便払込用紙の賛助金2,000円印字金額を懇親会費共7,000円に訂正の上郵便局にて事前払込をお願いします。

(ATM機に払込用紙を挿入すれば土、日、夜間もOK)

※準備の都合上、6月15日までに同封はがきで出欠の返信をお願いします。

大学を卒業した私は二、三の企業を転々とした後、職安(今のハローワーク)の紹介で先の会社に就職することになります。また、往きは浜松町、帰りは新橋という生活が永い間続きました。ともかく、当時の新橋は大変なもので、ヤミ市と称し、焼け跡の広場に露天商がごみごみした店を並べ、終戦の混乱が産み出した隠匿物資やアメリカ駐留軍の横流し品牛肉の缶詰等、種々の缶詰・洋モノ(煙草)・チョコレート・ガム類、失業者が産地から担いできた米などの農産物や海産物等ありとあらゆるモノが所狭しと並べられている、魅力ある処でした。そして、そこは暴力団が場所代をとって支配している怖い場所でもありました。そのヤミ市の昼火事を見に数名の仲間と学校を抜け出し、そこで住む所もなく集団で行動している浮浪児(子供のホームレス)に凄まれて逃げ戻り、当然校門で待ち受けていた先生に大目玉をいただいたこともありました。そのほか、鉄筋コンクリート造りの狭い校舎・教室・校庭、滑る廊下・階段、屋上でのキャッチボール、クラスごとに作られたチームの野球試合、野球部でのクラブ活動、実験室の改装作業、合併授業、港中学との同居・女子学生との交流・悪ガキだった学友、学友たちのあだな(ニックネーム・愛称)天才・すずめ・ゴ

リラ(通称ゴリラさん)・坊主(ボンさん)・かえる(ゲロさん)・ニグロ(296・ニクさん)・実家が鯨屋なのになぜかトーフや・かくゆう私はじゃがいも(ポテト・ポテさん)でした。先生方にも消防自動車(鐘が鳴るとすぐ来る)授業の始まり、終わりを鐘を鳴らして知らせていた)・おぼけ(いつの間にか教壇又は後ろに立って居る)笑ったことが無い、3年間で一度だけ笑ったところを見たことがある)・ライオン(めつたに怒らないが、怒ると怖い)・発電機(すぐ怒る)・蒸気機関車(湯気を出して怒る)・等々ユニークで個性的な先生方に恵まれ、悪友と言う名の人々に囲まれ、私は人生の何かを少しですが学んだような気がします。そして学校祭。記録によると私が入学した昭和23年第1回学校祭が開催されました。

10月28日運動会(芝公園グラウンド)、29日全・定合同の野球大会(芝公園グラウンド)、31日全・定合同の芸能祭(慈恵医大講堂)、演劇部が長塚節原作「土」上演、その他音楽部参加とあるが、私には記憶がありません。

この頃、都の教育委員会が発足しています。又、前年(昭和22年5月3日)に日本国憲法が施行されました。

さて、ここで芸能祭に少し触れて

みたいと思います。港工五十周年記念誌に旧職員・六平(むさか)先生(故人)の「在職中の思い出あれこれ」より一部を抜粋させていただきます。

『およそ「祭」と呼ぶからには、私はクラブ関係の展示会のほかに、どうしても演劇・音楽などの芸能部を持ちたかった。その点、4月には待望の演劇部が誕生し、部員たちは燃えていたので、私は今年こそチャンスだと思った。そして最終的には、記念第1回学校祭として発足。芸能祭の注目は演劇部の長塚節の「土」。高校生にはどだい無理な出し物だが、三幕四場に圧縮した出来栄えを買い、顧問の私の責任で演らせることにしたものだ。』とある。

同窓会にはたびたびご出席をいただいておりますので、ご存知の方も多いと思いますが、六平先生(あだ名はロツベさん)は我々学生に多大な影響を与えてくれた先生の一人だと思っております。尚、個性的な俳優として活躍、数多くの映画・テレビ等に出演されている六平直政氏は先生のご子息です。

さて、音楽部門ですが我がクラスにもハワイアンバンドがありました。スチールギター・サイドギター・ベース・ウクレレ・時にはハーモニカも加わるバンドでした。最初の頃は聞くに耐えない音で



第3回学校祭は昭和25年10月14・15日・校内展覧会・演劇(本校講堂)・22日・運動会(全・定合同、芝公園グラウンド)。ちなみに昭和26(1951)年7月3日「港工高新聞」創刊号が発刊されています。又、昭和39(1964)年第17回学校祭より「港工祭」と改称されました。

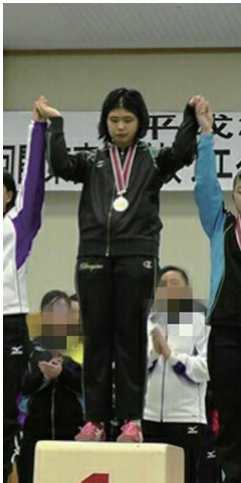
第2回学校祭より校内展覧会が始まりましたが、私たちは狭い教室や実習室などクリスマスのように飾り立てて書きでポスターを作成したものです。その後、生徒会を中心として全生徒で取り組み沢山の思い出を生み出してくれる港工祭。そのシンボルとなっている各回のポスターは毎回全生徒にポスター図案を公募して生徒会で選考し採用されたもので、第14回(昭和36・1961年)の学校祭から行われています。今まで50数回のポスターが生徒会で選考・採用されておりありますが、その内

第34回港工祭のポスターは我が息子知洋(マジシャン)が応募して採用されたもので、私は港工祭ポスターの中でナンバー1だと思っております(親バカ)。

作業が徹夜になることもあり、そんな時先生があんパンとお茶を差し入れて下さいました。そのあんパンの味は今でも忘れられません。

私は高輪工業、桜川分校、港工と都合6年間お世話になり思いで深いものでした。特に港工での3年間は忘れられません。思い出が次から次々と思いつき、とてもとても書き切れません。私が同窓会活動を30年近く頑張ってきたのは、そのような思い出が心の支えになっているのかも知れません。

たかが3年！ されど3年！



ウエイトリフティング部活動報告

東京都立六郷工科高等学校教諭

港工同窓会理事

港(全) 39期M卒

長瀬 史朗

六郷工科高校にはウエイトリフティング部があります。生徒は今年度は4名、3年生2名、2年生1名、1年生1名で活動してきました。ウエイトリフティング競技について説明したいと思います。

ウエイトリフティングは大会会場に行くときは、体重測定から入ります。自分の参加するクラスの範囲の体重であること。例えば69kg級の場合は、(下のクラス62kg以上で、69kg以下という具合です。)体重測定を終えて朝食を食べる選手も多々います。その後開会式に参加し、競技開始時間に合わせて、アップ(準備)を始めます。

バーから始まって、自分の体のリズムもあると思いますが、徐々に重さを上げて行き、自分の上げる直前まで調整します。そして競技、選手は準備をしながら、気持ちを高めていきます。競技は申請した重量を3回挙げて、一番いい記録をとります。

競技は「スナッチ競技」(下からおもりを一気に上げる方法)と「クリーン&ジャーク」(持ち上げて一旦胸でとめ、その後上に挙げる方法)があり、2種類の合計の重量が記録になります。基本的には「クリーン&ジャーク」の方が、重い重量を挙げられます。

今年度は3年生男子が全国高等学校総合体育大会(インターハイ)や関東大会(3年生男子2名)、全国都道府県対抗女子大会(2年生女子1名)先日は、2年生女子が関東選抜大会でクラス優勝など、少しづつ結果を伸ばしながら、成長しています。大会参加の様子などは、六郷工科高等学校HP、部活動のところでも、届けることができます。これからも応援よろしくお願いたします。

返信はがきからの近況・想い出（特別会員28年度）

旧（第10代校長）村上 五雄

いつもご案内をいただき、有難く、なつかしく拝見しております。最近、体力、知力、ともに老化が進み、外出が難しくなりましたが、港工の思い出は多く残っております。しかし在勤時代にお世話になった先生方の訃報を知る度にさびしい気持ちになります。どうか、前田会長はじめ会員の方々にはお元気でこれまで以上に同窓会を盛り立ててくださいるよう祈念申し上げます。

旧（第14代校長）和泉 勲

港工、校舎が消えてさびしいですね、都合がつかせないので欠席とさせていただきます。同窓会が運営できない学校が増えています。港工同窓会ぜひ頑張ってください。

旧（教頭）定 石井 良治

① 職員室の雰囲気が出る、先生方にはよく協力していただいた。給食がおいしく、栄養士さん調理師さんに感謝。
② 夕方屋上から見た、明かりのついた東京タワーは見事だった。
③ ご盛会を祈ります。

旧（教頭）全 本波 哲郎

総会の御案内を戴き有難うございます。お陰様で、この1年も家族共々恙無く過ごしました。総会等には出席致しませんが、港工同窓会の彌榮とご参集各位の一層のご健勝を心より御祈り申し上げます。

旧（教頭）定 三谷 和夫

昭和52年から9年間定時制教頭としてお世話になりました。なつかしい思い出がいっぱいです。その校舎もついになくなったそうです。当時の職員の方々、生徒諸君に改めてお礼を申したいと思えます。おかげ様にて先ずは元気で過ごしております。ことし米寿を迎えます。少しは世のため役立つことをしたいと思っております。

旧（教頭）全 江部 明夫

昭和63年4月から1年間でしたが、港工での教頭の時がとても懐かしく想い出されます。皆、いい先生、いい生徒でした。私はなんとか元気でおります。今は、「甲種危険物取扱者受験本」を執筆中で、忙しくしています（6月刊行予定）。港工同窓会のご盛会を祈ります。

旧（教頭）定 市川 勝緒

ご連絡ありがとうございます。当日所用のため参加できません。ご盛会をお祈り致します。

旧（教頭）全 相川 英昭

欠席で申し訳ありません。港工は小転校で教室が狭くまた、風通しも良くなかったので、夏の教室は蒸し風呂状態でした。私の在任中に教室に冷房装置が入ったのが良い思い出です。

旧（教頭）全 桑原 洋

あのコンパクトな校舎で過ごした4年間を今でも良く思い出します。また、その校舎で真剣な表情で授業に出席していた生徒たちの顔が目にかびます。

旧（事務長） 福田 和廣

毎年、通知をいただき恐縮しております。定年退職後、体力と気力の減退もなく、継続して働いています。この4月からは城東特別支援学校にて勤務しております。卒業して20年近く経ってしまい、旧校舎や先生方の記憶が大部薄くなってきました。本会を運営していただいている卒業生の皆様の健康を祈念するとともに、港工の歴史を末永く伝承されることを期待しております。

旧（教頭）全 木村 武敏

ご盛会をご祈念致します。

旧（事務長） 田辺 秀典

ごぶさたしています。定時制が今までのおいしかった給食が弁当給食になる時、板バサミで苦労しました。

旧（電気）全 山田 信幸

（S25・6～S29・6）の4年間、青春時代を過ごしたコンクリートの校舎、今も目に浮かびます。変わらないのは愛宕神社の出世階段とトンネルですね！生徒たちと写った階段写真、なつかしいですね。体調を整え出席します。

旧（自動車）全 中井 泰也

ここ数年欠席しており申し訳ありません。今度も、リハビリの当日と重なり欠席させていただきます。よろしくおねがい致します。

旧（電気）全 小又 良一

3年前に妻を失い、1年前には階段から落下、極度に落ち込みましたが、しぶとく生きております。港工の思い出、愛宕山近辺の景観など、私を支えてくれていたようです。それに卒業生諸君からの暖かい励ましもあり、感謝の極みです。港工は校歌と共に私を生かしてくれているようです。

旧(事務)全 森田 智恵子
ご案内ありがとうございます。当日予定がごいいますので、欠席とさせていただきます。

旧(電子)全定 大谷 忠雄
役員の皆様お世話さまです。

旧(給食)定 佐藤 清子
いつもご連絡ありがとうございます。

旧(体育)全 吉野 尚也
50年前に担任をした自動車科の教え子たちが還暦を過ぎ、毎年開いてくれるクラス会を楽しみにしています。今年は小生が77歳の喜寿を迎えます。同窓会総会、懇親会の盛会を祈念しています。

旧(電子)定 伊藤 雅章
ノーベル賞を受賞した大村智先生は、都立隅田工高の定時制で教鞭を執りながら大学に通ったこと。港工定時制にも昼間研究生生活を通じて大学の先生に転出された先生方も多数いらっしゃいました。一芸に秀でた先生ばかりで若い私に励みになりました。

旧(教務)定 西原 要四郎
「母校」の姿が消えたことで「時」の動きを認識し、「己」の老いを知る……淋しい！

旧(電子)全 貝瀬 栄輔
体調不良のため欠席いたします。同窓会の発展をお祈りします。

旧(数学)全 両角 亮一

思っている以上に体の衰えを感じ階段、段差、窪み等に注意しています。又囲碁、書道等で出来るだけ外出するように心掛けています。あるものはいつかはなくなりませす。母校が取り壊され寂しい限りですが思い出はあります。あんなこともあつたな、やつたなと色々聞きたいと思つてます。

旧(電子)全 菅原 彪
体調が悪く欠席させて頂きます。ご盛会をお祈り申し上げます。

旧(英語)定 福井 祥
36年と3年の都立教員時代、うち18年の港工定の青年時代が最も充実し、懐しい思い出です。70才半ばへ向かいつつありますが、できれば、高年海外一人旅バックパッカーを続けたいと思つています。ご盛会を念じています。

旧(電気)全定 砂川 海廣

港工は、生徒としてまた教員としても永く色々と思ひ出が多いです。残念ながら出席は出来ませんが、皆様宜しくお伝え下さい。

旧(社会)定 藤崎 ミヤ子
私が奉職した頃(昭和42年)はまだ給食はミルクと食パンのみでした。重い食カン(バケツ)を運ぶ制服がたの生徒の姿が今でも懐かしく思ひ出されます。同窓生の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

旧(電子助)全 小野 直樹
ご無沙汰しております。私は、昭和45年4月に港工業高校に着任し16年間勤務しそれから王子工業高校に勤務、烏山工業高校、練馬工業高校、総合工科高校(旧世田谷工)勤務中に定年退職となり再任用5年を終了し平成27年3月をもって完全退職をいたしました。

旧(機械)定 福富 千明
別れと出合いが交差した、愛宕の桜が想い出されるシーズンです。はや、最初の卒業も還暦。紙上は回顧の宝库です。いつも楽しくご拝読させて頂いております。ありがとうございます。

旧(国語)全 小池 弘美
あのレトロな校舎がなくなつたのですね。「昭和」がまた一つ消えた……

旧(英語)全 久保田 省吾
引き続き日刊工業新聞社でやっています。

旧(数学)全 栗原 幸一
平成28年3月末定年退職しました。港工業は、新採時の高校ですので懐かしい限りです。卒業生はもう50才近くになってはいるはず。年をとるはずです。

旧(理機助)全 伊藤 孝夫
今年3月31日をもちまして、再任用も終わり退職しました。これからは時間講師をやりながら、いろいろな趣味をやつていきたいです。

旧(国語)全 吉川 英雄
ご連絡ありがとうございます。新規採用教員として港工でスタートし、37年間10校の高校を経験、現在竹台高校で現役最後の年度を迎えました。今年には参加させて頂きたくす。(ハプニングがなければ……)よろしく願ひいたします。

旧(事務) 湯田 省三
私は、昭和60年度の1年間港工高校で勤務しておりました。在職中の一番の思い出は、アスベスト問題と自動車科のシャシーアナライザーの設置工事でした

旧(英語)全 甲斐 徳隆
70歳になったら3カ月かけて四国八十八カ所を歩こうと思つています。今年も大学生相手に頑張ります。

旧(体育)全 小川 幸吉
いつもご連絡を頂き有難うございます。高校野球も100周年を迎えます。

旧(英語)全 佐藤 芳教
港工業高校の校舎は私の母の母校、愛宕小学校の校舎でした。解体は残念です。

旧(国語)定 持田 ひろ子
年々歳々花相似たり歳々々々人同じからず。教え子の訃報が届いたりして、港工業の日々も遠くなりまして。愛宕山の桜は今年も咲いているのに。

旧(家庭)全 榎垣 栄恵
同窓会役員の皆様お世話になりました。ありがとうございます。港工業の周辺も大きく変わり、懐かしさと寂しさを覚えます。小学校転用校舎、一家庭科男女共修のために皆さんが工夫し、職員室をつぶして作って下さった家庭科一狭くて思い通りにいかないことも多かったのですが、とても温かい空間でした。みなさまのご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

旧(数学)定 清水 隆夫
いつもいつもご連絡ありがとうございます。旅行中だった為、返事が遅れて申し訳ありません。当日も、東京を離れていますので、欠席とさせていただきます。よろしくお祈りいたします。

旧(英語)全 上田 みつ子
昨年10月中旬、太田産業プラザPiOで大田区内の商業のおまつりがありました。六郷工科の生徒さん達も出席していました。つい、話しかけてしまいました。港工業では、自動車学科を1年だけ担任させて頂きました。車いすの必要な親を、車で外出させることが多くなり、自動車のありがたみを感じています。

旧(事務) 国分 賢司
小学校転用校舎として、手狭な施設はそれなりに思い出があります。取り壊されるのはやむを得ないとしても、残念な気持ちがあります。小さく、浅いプールの事、屋上で野球部が練習していたこと、屋上に空調室外機を並べたてた事などを思い出しています。皆様のご多幸をお祈りします。

旧(英語)全 十亀 有紀
この4月より都立戸山高校に移動となりました。9年連続担任ですが、がんばります。先日港工のあったところを見ました。校舎はなくなっても、なつかしい思いは変わりません。

旧(電気)全 諸富 宏行
所用のため出席できませんのでお祈り申し上げます。同会の発展をお祈り申し上げます。

旧(国語)全 川田 裕美子
4月より、文京高校で1年生の担任を勤めます。港工業での4年間は、私にとってかけがえのない思い出です。

旧(教助)全 樋口 重子
私も90才となり身体のおちら、こちらも悪くなって困り乍らも、送り迎えもして頂ける我孫子診療所のデイサービスに参加して楽しんでおります。ボケが進まないように本を読んだり日記を書いたりもしております。

27年度追加分(正会員)

港(定)39期C 杉浦 秀典
在学中は、三谷先生、大谷先生はじめ多くの先生方にお世話になりました。港工を卒業後は東洋大学経営学部2部へ進学し、東洋大卒業後はセコム(株)に就職して営業開発に配属されてきました。思うことがあり3年で退職して、福岡の西南学院大学へ編入学し専攻科まで学んで、中高1種及び専任教員免状と学芸員資格を取得。現在は世田谷区にある、民間博物館「賀川豊彦記念松沢資料館」(賀川豊彦は協同組合運動の父と呼ばれる)で、副館長、学芸員、アーキビストとして15年間、社会教育事業に従事しています。アーキビスト資格は日本で始まったばかりです

が、その第1回目の資格取得者です。元気にしております。取り急ぎ、消息まで。
— 敬称を省略しました。

◆平成28年度定期総会

恩師出席予定

- 石田 昭宣 (事務長) 全
 - 山田 信幸 (電気) 全
 - 加藤 琢二 (電気) 全
 - 小笠原 将幸 (体育) 全
 - 広橋 恭二郎 (電気) 定
 - 西原 要四郎 (教務) 定
 - 両角 亮一 (数学) 全
 - 栗原 幸一 (数学) 全
 - 吉川 英雄 (国語) 全
 - 杉野 栄一 (自動車) 全
 - 長瀬 史朗 (機械) 全
- 平成28年4月20日現在 (敬称略)

恩師 訃報

古川 正信 (自動車) 全
橋 とよみ (国語) 全

ご冥福をお祈り申し上げます (敬称略)

第5回 港工同窓会旅行記
港(定)13期E 西原 要四郎

実施日 平成27年10月18、19日
 目的地 箱根温泉郷

湯本伊東園ホテル
 参加者 八名
 費用 一万円 交通費を除く

「旅は道づれ世は情け」って今の世には忘れられた格言(?)なのでしようか(?)。観光地と云われる条件は「眺め」が良く「食べ物」が豊富で美味しいことです。

近年は津波と地震の恐怖に苛まされながらも味覚と一時の開放感を求めて交流が図られています。若かりし頃には「楽しみ極まりて哀情多し」の如くでありましたが今は「楽しみ酒」で笑い、歌って良しとする旅の楽しさで平和を感じる瞬間です。今回はお正月に行われる名物マラソンの折り返し地である箱根温泉になりました。マラソンの折り返し点の近くにある大涌谷が不気味な動きをしています。湯本は安全とのこと。で決行と相成りました。

10月18日午後4時に現地集合とのこと。ホテルに入館、挨拶もそこそこ。ザブンと湯船に浸る。誰かに気遣うこともなくのんびりと汗を流しながら時代と共に変わりゆく町並を

観ながら若き頃に見た箱根温泉郷への入り口付近を思い浮かべながらその変貌ぶりに驚愕していました。

参加者は前田会長をはじめ8名とやや淋しそうに思えますが、そこはベテラン揃いで賑やかな一夜を楽しむことに相成りました。

ゆっくりと食事を済ませるや否やカラオケBOXへ一目散! 夜の更けるのも忘れて唄い繋いで... 心地よい疲れを感じながら部屋へ戻るやパタンキュー!

おはようございます! と云いながら改めて自己紹介し、想いで話しをし乍ら食堂へ! ゆっくりと腹拵えをして玄関前で記念写真を撮り小田原へ向けてのヤジキタ道中です。

2日目も快晴で気持ちよくスタートしました。昭和40年頃に蒲鉾で賑わっていた箱根板橋界隈を流れている早川には多くの釣り人が竿を振っていた光景が浮かんできました。プラの散歩と決め込んで小田原城へ向かいました。小田原城の前身は室町時代に西相模一帯を支配していた大森氏が八幡山に築いた山城でした。15世紀末伊勢宗瑞(後の北条早雲)が小田原に進出し以後北条氏が五代約百年にわたって関東での勢力を拡大していききました。小田原城は豊臣秀吉の来攻に備え城下を囲む総延長9kmに及ぶ総構えの出現に至ってその規模は最大に達したといわれ

ました。しかし天正18年に石垣山一夜城の築城をはじめとする秀吉の攻めにより北条氏は滅亡し戦国時代は終焉を迎えました。北条氏滅亡後、徳川家康に従って小田原攻めに参戦した大久保氏が城主となり城は近世城郭の姿に改修されました。その後、改易にあたり破却や再整備されるなどの変遷があり城の姿は一新されました。貞享3年に小田原城は東海道で箱根の関所を控えた関東地方の防御の要として幕末に至りましたが明治3年に廃城、明治34年に二の丸に御用邸がたてられました。大正12年9月の関東大震災により御用邸の他、石垣も全滅し江戸時代の姿は無くなりました。

できる限り参加して交流を深めていきたいと思えました。



宴会後 二次会風景

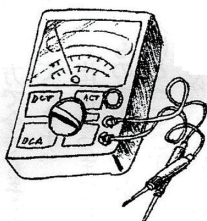
◎第6回 港工同窓会旅行

今秋(平成28年度)の旅行は伊豆半島・伊東温泉です。(熱海から各駅停車で30分位)

平成28年・同窓会旅行

場所: JR伊東駅・伊東温泉
 「伊東園ホテル・松川館」
 日時: 10月16日(日)~17日(月)
 費用: ￥10,000 (交通費別)
 詳細資料請求の方は下記へ
 (参加の有無に関係なくお送りします)
 連絡先: 旅行幹事・中西悦夫(12E2)
 042-561-8242 (夕方以降不在多)
 又は、事務局・松岡 まで

クラス会の無い方、お一人の参加も歓迎します。話せば昔の思い出が懐かしく浮かんできます。



私の半生

港(全15期E1) 新谷 義男

はじめに同窓会の運営にかかわった皆様に感謝申し上げます。都庁に2回電話して同窓会にたどりつき、又、クラス会も二十数年ぶりに再開して高揚しております。母上の友人の息子さんが港工高卒で「港工はないよ」と伝え聞いた。見に行ったらとき校舎はあった。最近土台だけの姿を見た。

なぜ港工高に私はかかわっていなかったのだろうか？旧港工高の学校祭に行った事もないし、その反動が大田区雑色六郷工科高の学校祭に土、日、2日も行った。その教室コーナーに入って歴代のアルバムに釘付けになった。港工高新聞もコピーさせてもらった。その新聞の存在さえ忘れていた。水泳部にいたので私の名もあつた。青春鍛えの原点、港工高。今無いながら同窓会活動にがんばりたい。

卒業して私は社会(会社)にとまどっていたようだ。精神病、入院一年を2回も思ってしまった。三井精機を5年で退社、少しして日本電興(中小企業、高周波メーカー)に40年以上勤めた。しかし、倒産し派遣の会社クログローに3年勤めて仕事は

やめた。社会に出て、併行して特出すべきはある宗教に入ったことです。社会に出て失望したのか迷ったのか。学校時代は学業とスポーツでよかった。精神的支柱がほしかったのか。

今も、その宗教の実践と教学(驚愕)を深めています。特に私の前世は？罪業はと考えると恐ろしくもあり、楽しくもあります。

私の息子は自閉症(施設)娘は知的障がい。今までもこれからも戦うしかない人生です。今後もクラス会、同窓会(水泳部OB会)に出席を含む)出来る限り参加したい。港工高よ 永遠なれ！

編集部より

新谷氏は15年六郷祭より、新たに港工同窓会理事に就任されました。

港工校舎跡地

港工校舎跡地は、慈恵医大の新病棟の建設に向けて動き始めました。理事会忘年会の日に行ったら、丁度工事用の塀を取り付けているところで、中で土を掘り返している現場を撮影できました。撮影後、数時間後には全て塀でふさがれて、その後、現場を見ることはできません。貴重な一瞬を撮った現場写真の一部を掲載します。(ただ、穴が見えるだけです)。(撮影中西)



自動車工場跡地方向から



掘削中

建築計画のお知らせ	
建築物の名称	東京慈恵会医科大学附属病院 新大学2号館(仮称)・新病院仮病棟工事
建築敷地の番地	東京都港区西新橋3丁目85番1号
用途	大学・病院
敷地面積	5,383.22㎡
建築面積	3,654.96㎡
延べ面積	30,822.09㎡
構造	RC・SRC・CFE 基礎免振構造
基礎工法	直接基礎
階数	14階 / 1階 / 2階
高さ	65.00m (最大66.00m)
着工予定	平成28年2月1日
完了予定	平成30年10月31日
建築主(住所)(氏名)	東京慈恵会医科大学 〒100-8305 東京都港区西新橋2-25-8 理事長 藤原 隆夫
設計者(住所)(氏名)	株式会社竹中工務店 〒100-8305 東京都港区西新橋1-1-1 取締役 佐々木 隆夫
施工者(住所)(氏名)	株式会社竹中工務店 東京本店 〒100-8305 東京都港区西新橋1-1-1 執行役員 佐々木 隆夫
協議設置年月日	平成 27 年 10 月 20 日

●この標識は東京都中高層建築物の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例第5条第1項の規定により設置したものです。
●上記建築計画についての説明の申出は下記へご連絡ください。
(連絡先) 株式会社竹中工務店 東京本店 営業部
担当 者 坂戸・金子 電話 (03) 6810-5000



理事会忘年会 (2015/11/21)
新橋・松竹梅にて



慈恵医大病院から撮影した、校舎解体前及び工事中
(通院中の港18A田中二昭様より提供)



「20周年記念誌より」

(昭和41年11月発行)

同窓会のことなど

麻布(一本)1期E 山下陽康

港工高二十周年記念に際し、同窓会統合のころについて書くようにいわれましたが、詳しくは、久保田同窓会長が書かれることと思っております、簡単な経緯だけを記しておきますと、港工高が二十年前発足してか

ら五、六年経過してからのことと思えますが、高輪工業の卒業生と麻布工業の卒業生が数名港工高の校長室に集合して……というのは、当時の港工高の先生方には高輪工業や麻布工業で教鞭を取っておられた方が多く、今では廃校になった両校のOBたちを、どうしたらよいかについて心配して下さっておられたからで、われわれOBは自分たちのことを自分たちでやらずに先生方にご心配をかけていたことになるわけで誠に汗顔の至りと深く恥じ入ったわけでありませぬ。……とくに私の母校麻布工業は、戦災で全焼、ただ廃墟があるのみで、われわれはどこに寄り所を求めたらいいのか。このままでは、集まるにも集まるどころがありません。それは、緊急に話し合わなければならぬ問題でした。話し合った結

果、港工高が新しく発足するに際して、それぞれ三つの母校が発展的に解消し整理統合したのであるから、当然現在の港工高が母校であるべきであろうとの結論に達し、高輪と麻布とその創立時代の工業補習夜学にまでさかのぼって、今までの卒業生全部を港工高の同窓生として、包含していくことになったわけでありませぬ。したがってわれわれが今回の記念行事に参加するのは源流のOBという資格であろうかと考えておりませぬ。

そして私が麻工の思い出を書くことによつて、この延長された歴史の源の一つがどのような学校であったかをご了解いただいて、全同窓生の団結の一助にでもなれば幸いであると思ひ麻工の歴史について、おぼろげな記憶をたどりつつ書いてみたいと思ひます。

眼をつむつてジッと三十年ほど前のことどもを思い出してみました、いかにも古い昔であることか！途中に戦争による寸断と混乱が渦まいた時期があり、恩師や同窓生の多くはこの戦争に参加し(好むと、好まざるとに拘らず)戦場に散った人もかなりありました、それをさらに越えた以前にわれわれがまさにティーンエージャーのころまでふりかえってみると、あのころ、このこと、いろいろのことどもが数限りなく走馬

燈のように明滅します。

かつて麻布工業が、静かにひっそりと位置していたところ、いまや六本木族が横行し、不夜城のごとき、ナイトクラブ族生の地域に変転しています。その麻布仲の町にありました。その当時は……昭和十一年ころ……は牧野不動貯蓄銀行(現協和銀行)頭取邸や、その他大邸宅に四囲を囲まれた屋敷街のなかでまことに静かなところでした。校舎はと申しますと鉄筋白亜の五階建てと書きたるところですが、それはすぐ近くにある麻布小学校で我々の母校は木造二階建てのオンボロで若いエネルギーに溢れる当時のわれわれが、ちよつと元氣を出せばあちこちが破壊しそうな老巧の校舎で、前期麻布小学校のお下がりと聞いています。しかし庭には老桜の大樹が数本春ごとにみごとに花をつけ、赤いつややかな桜ん坊を実らせ春らんまんの風景を展開するのです。

て入学し、機械科、電気科ふた組だけで、全校生徒約六〇名でした。当時は夜間部もあり、商業科を併設しており、三年制の乙種学校で、その名も麻布商工学校といわれていたが、われわれが三年生になるころには五年生の工業だけの甲種学校に昇格し東京市立麻布工業学校となりました。したがって三年制のまま卒業した人も数人あったわけだ。この改制の前年ころに姉妹校として、四十七士の墓所で有名な高輪泉岳寺の近くに高輪工業が誕生したことを記憶しております。

当時の先生方は現在も港工高で教鞭を取っておられる方もあり、教壇を退かれた方もあり、すでに幽明処を異にした方もございますが、当時の先生のニックネームを書いて、往時をしのびたいと思ひます。

想い出すままに書いてみます。
カマキリ、ダッチョ、花王石鹸、カラス、ベアー、ダルマ、オーエンス、五十サイクル、ガントツ、キザボーイ、ゴレム、ヒットラー、デアナダービン、黄金バット
書きつらねていると、やはり、その時代色といったものが自然にあらわれていくようです。その一つ一つに懐かしい恩師のおもかげが浮かんでまいります。

庭の広さを申しますと、庭球のゴムマリで野球をしてポンポン場外ホームが飛び出すありさまでした。麻布工業は、私たちが第一回生とし

最後に諸先生並びに同窓生諸君のご健闘とご発展を祈ります。

「50周年記念誌より」

(平成8年11月発行)

厳しく愛情こまやかな

指導者と若き紳士達

元教頭 延時 弘

東京都立港工業高等学校の創立の歴史を辿れば、明治39年創立の高輪工業、以後創立された麻布工業、渋谷工業の3校を昭和21年に統合、港工業となってから50年になります。まことにおめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

この名門工業高校に、私は昭和57年4月から昭和63年3月まで6年間在任しました。その間に経験した素晴らしい先生方、愛すべき生徒達の実態の一端を紹介して港工業の教育に触れてみたいと思います。

1. 厳しく愛情こまやかな先生方

① ハイレベルな学習到達目標

港工業の先生は、学習の到達目標を相当に高いところに置いていました。例えば電気科の先生の場合は、電気主任技術者三種の国家試験に合格できるレベルを考えていたようです。

昭和20年代後半から40年代始めにかけて、まだまだ高校進学率が低い

時代には東京の工業高校では入学倍率も高く、学力的にもハイレベルな生徒が数多く入学してきましたから在学中に三種が取れる生徒も珍しくありませんでした。しかし、50年後半ともなりまずと進学率も90%を越え、学力のバラツキも大きく、学習到達目標も再検討せざるをえませんでした。

そのようなとき、私は港工業で工業数理の授業を担当しました。赴任した年の1学期の中間試験で、改めて港工業の生徒の優秀さを再確認しました。私の目算と違って、平均点87点という高得点だったからです。それにもかかわらず、先生方は昔の生徒は良くできた。1を教えれば5は勉強した。今の生徒は出来が悪い。1ー1などと欲の深いことをおっしゃる。質の高い生徒をハイレベルな目標に向けて厳しく引っ張って行くのですから、港の卒業生と言えば高く評価されるのも当然です。

② 愛情こまやかな指導

中学校卒業生の数が減少し、工業高校に入学して来る生徒の学習レベルが徐々に低下していったある時期、港工業でも、中学校での成績が極めて低く、港の教育にはとてもついていけないだろうと思われる生徒が入学してきました。

当然、入学選抜の時には合格させることの可否をめぐって激論があり

ました。そして、入学を認めよう。さらに是非卒業させようとの結論に達しました。それから先生方の闘いが始まりました。

高レベルの学習到達度の要求に、本人のたゆまざる努力が期待されたのです。授業方法の改善や、非常に多くの時間を割いての個別指導など、先生方のきめ細やかな指導にもかかわらず、学力が目標に達せず、留年する場面もありました。しかし、最後は本人の必死の努力もあり、先生方の愛情あふれる指導で、ついに卒業にこぎつけました。

指導者としての港工業の先生方の厳しくもまた愛情に満ちた教育の成果です。

2. 若き紳士達の集団

生徒にはそれぞれに、校種や地域性などによる特徴があります。港の生徒の特徴は若い紳士達の集まりということが言えます。

ある昼休みのことです。一人の生徒が「失礼します」と言いながら、職員室に入ってきました。チラッと中を見てすぐに「失礼しました」と言って帰ろうとしました。見かけた私は、何の用事か聞いたところ、担任の先生が食事中なのでまた出直しますとの返事でした。

先生が食事中だから遠慮する。今の生徒達にはなかなか期待できない気配りです。後で担任の先生に聞いたところ、

たところ、社会人になれば当然のことであり、その程度のしつけは当たり前とのことでした。

そのことで気がついたのですが、港工業では生徒を呼びつけにしません。ほとんどの先生は君付けで呼んでいました。生徒の態度・行動も品があり、礼儀正しいものです。先生方が一人ひとりの生徒を信頼し、大人として対応しているかと思えます。まさに若き紳士達の集団です。

3. おわりに

これからの日本の工業を背負って、中核となって働くことのできる人間が、このような歴史と伝統を誇る港工業の教育の中から巣立って行くのです。先生方の一層のがんばりに期待申し上げ、学校のますますの発展をお祈りいたします。



※港工50周年記念誌(平成8年)

※港工閉校記念誌(平成16年)

在庫があります。ご希望の方はDVD付事務局までご一報ください。

事務局からお知らせ

◎会則改定による賛助金のお願い
平成27年度の総会案内及び会報は、恩師及び賛助金納入者（1、600部）、秋の臨時号も同様に送付しました。賛助金は526名の方に送金戴き、前年比約5%若干の減少でした。本年の会報発送は、昨年同様恩師及び賛助金納入者等に絞り、財政の効率化を計ります。

同窓会の収入は会員の賛助金・寄付金のみです。会報継続のため皆様のご理解をお願いします。

消費税増により振込手数料（同窓会で負担）が高くなりました。

窓口振込 120円 ↓ 130円
ATM機 80円 ↓ 80円

※郵便局のATMを使えば、

①土曜・日曜・夜間も振込出来ます。

②同封の振込用紙をそのまま機械に挿入し、金額のみ押せばOKです。

③窓口より待ち時間が早いです。

☆銀行口座振込みを受け付けます

銀行 三菱東京UFJ銀行

支店 433 新橋支店 普通預金

口座番号 4753403

口座名義 港工同窓会会長前田武男

※必ず名前の前に会員Noを記入して下さい。

出来れば振込連絡をお願いします。

◎卒業生への諸証明発行について

都立港工業高等学校の閉校に伴い卒業生への諸証明の発行事務は都立六郷工科高等学校において受け付けています。

〒144-8506

大田区東六郷2-18-2

京浜急行「雑色」下車

TEL 03-3737-6565

国道沿い徒歩3分

ご不明の点につきましては、

東京都教育庁高等学校課

TEL 03-5321-1111

へお問い合わせ下さい。

◎会員数の把握状況		H28年3月現在		
区分	在籍数	確認数	(亡)	
正会員	高輪第一本科	771	23	(92)
	高輪第二本科	768	99	(153)
	麻布第一本科	485	565	(104)
	港・定時制	3,866	3,452	(337)
	港・全日制	9,773	55	(95)
	計	15,663	4,194	(781)
特別会員	旧校長	15	5	(10)
	旧職員	626	252	(146)
	計	641	257	(156)

>同窓会の連絡先変更について<

従来の(株)クリーンジャパンを退職したので、住所変更の連絡、名簿内容の質問、同窓会ニュースへの寄稿、クラス会他近況等々は下記事務局へお願いします。

記

〒278-0051 千葉県野田市七光台158-5

港工同窓会 松岡 信之(会計理事・港16期A)

TEL 080-1278-1584 FAX 04-7129-0916

E-mail : matsuoka@minatokou.net

☆平成27年度の収支状況

前期繰越額		1,915,435.-
収入の部		1,421,323.-
臨時会費	210,000.-	
賛助金 526名	1,052,000.-	
寄付その他	159,323.-	
支出の部		1,561,874.-
総会費 49名	591,872.-	
通信費	499,315.-	
広報費	367,292.-	
文化祭費	8,198.-	
事務その他	95,197.-	
次期繰越額		1,774,884.-

◇編集後記◇

昨年(平成27年)の六郷祭より新たに2名の同窓生の方が理事に参加されました。26期A小坂洋二さん、15期E1新谷義男さんのお二人です。小坂氏は某大手自動車メーカー出身。新谷氏は別項に手記を載せております。お二人とも、現業を卒業され、時間に余裕が出来た頃、当同窓会の存在を知ったそうです。昨年秋の臨時号で紹介した、奄美大島商工会「奥篤次さん」であった例のように、同窓会が活動していた為に出会ったことでした。筆者が同窓会理事として、本格的に参加したのが現業を卒業した頃。港工同窓会として新入生の会員は新たに出ることはありませんが、会社などを卒業後、第二・第三の人生として、同窓会活動でもしたいと思っていられる方がこれからも出てこられるでしょうから、まだまだ同窓会は発展の余地はあるでしょう。

港工同窓会再建25周年から、次の目標30周年に向けて動き始めました。同窓会再建以前の古いことでもかまいませんから、学校行事や学外で(港工に関して)の珍しい話題などがありましたら、事務局宛にお知らせ下さい。写真などでもOKです。麻布、高輪時代のことを語る方も少なくなってきました。埋もれる前に是非記録に残したいものです。